



10月15日(火)「令和6年度第2回学校運営協議会(CS・コミュニティスクール)」が開催されました。

令和6年11月25日発行
新潟市立笹口小学校
CS事務員

今回の会議は・・・

《1》全クラスの授業参観

各階ごとに授業の説明を受け、その後は自由に参観していただきました。



《2》学校の取組説明

7月までの学校評価について

○子どもたち主体の学習を大切にし、子ども一人一人が自分事として学習を捉え活用していただける授業を行っている。可能な限り子どもに、判断や行動を委ねている。今後も継続し、力を伸ばしていただけるような授業づくりを職員一同考えている。

○「クラス会議」を全学級で行っている。話し合いに参加する全員の考えを大切にすることで、温かい学級集団となるよう取り組んでいる。その結果、学校が居心地のよい場になることにつながっている。また、終業式での発表など様々な活動で自分の考えを表現しようとする子も増えている。

○多くの活動で、地域教育コーディネーターと連携し、保護者、地域の方にご協力をいただいている。その方々から、直接頑張りを称賛してもらう場を作り、子どもたちが地域との関わりの中で、成長を実感できるようにしている。さらに、子どもたちの成長の様子をおたより等で発信している。

多様な学びの保障について

朝から教室に入れないうちの子さんのための心の安定場所として、教務室や相談室での支援を行っている。さらに後期からは、SSR=新潟市スペシャルサポートルーム制度で、週に1回、専門の担当者が配置され、相談室での遊び相手になったり、学習のお手伝いをしたりしている。今後、ますます子どもたちの多様な学びを保障するために一層の対応が求められる。地域や保護者の力を借りながら、多くの大人の目で多様な学びを支援していきたい。

《3》意見交換



ほっとハウスのコーディネーターさんが、教室に戻れない子に優しく教室に誘導してくれる。ほっとハウスの目指す役割の一つだと思う。

光のページェントで、地域の大人と関わるなど、小学校は、大人の社会の土台作りをしてくれる。

どの学校においても、子どもたちの良好な人間関係づくりをいかに支援するかが、課題だと思う。

光のページェント実行委員より、活動後のフィードバックを行いたい。来年は運営費の捻出など、お金の仕組みも子どもたちに話したい。



先生が、子どもたちの考えを認めてあげている。自己肯定感の高い子どもに育つと思う。

先生は、子どもにとって、絶対的な存在であり、影響力が大きい。よいところや、努力を拾い上げ、褒めてもらえると喜ぶ。

大人になるほど、思考・判断・表現が必要とされるが、小学校から育てていただいている。

思考、判断した結果がどうなるか考え、行動できるようになってほしい。

笹口は地域との関わりも多く、そこで色々経験することで、学校だけでなく、地域の中でも、自分の居場所を見つけられる。

ボランティアをするなかで、どこまで子どもたちと関わればよいか、教えてほしい。

笹口小学校の授業参観、活動報告の話を聞き、素晴らしい教育を受けた子どもたちの将来を見届けたい。

＜学校回答＞

子どもたちが話してくることを聞いてあげて、アドバイスを求められたら、それに答えるというスタンスで、子どもに寄り添って支えてほしい。